

宮城県流域下水道事業経営戦略(概要版)

■背景

- ◇昭和47年に下水道事業を開始して以来、7つの流域下水道事業の整備、運営を行ってきた。
- ◇本県の人口は平成12年の約237万人(国勢調査)をピークに減少に転じており、人口減少による将来的な処理水量の減少が想定される。
- ◇平成30年度末までの経過年数は仙塩流域下水道で40年、阿武隈川下流流域下水道で33年と老朽化が進行しており、施設・設備の更新に多額の費用を必要とすることが予想される。
- ◇平成27年1月27日付けで総務大臣から、平成31年度末までに下水道事業に地方公営企業法を適用し、公営企業会計に移行するよう通知が出され、将来にわたる安定的な事業継続のための経営戦略策定の要請がなされている。
- ◇本県では、「水道用水供給事業(上水)」、「工業用水道事業(工水)」、「流域下水道事業(下水)」の3事業を一体として民間の力を最大限度活用することにより、経費削減、更新費用の抑制、技術継承、技術革新等を可能とする「宮城県上工下水一体官民連携運営事業(みやぎ型管理運営方式)」の導入に向けた取組を進めている。

■目的

- ◇平成31年4月から公営企業会計へ移行し、経営状況や資産等の正確な把握による経営効率化や、安定的な事業運営を行うため、中長期的な経営の基本計画となる宮城県流域下水道事業経営戦略を新たに策定する。

宮城県流域下水道事業経営戦略(平成31年3月策定) 計画期間10年(平成31~40年度)

〈下水道事業を取り巻く情勢〉

- ①人口減少社会 ②厳しい財政状況 ③施設の老朽化 ④職員数の減少 ⑤災害への対応 ⑥下水道資源の活用 ⑦民間の活用

〈基本理念〉

下水道事業の安定的経営と良好な水環境の形成

〈経営方針1〉

経営基盤の強化

〈施策〉

- ①安定した財政運営
- ②経営の効率化
- ③下水道資源の活用

〈経営方針2〉

下水道施設の強靱化

〈施策〉

- ①施設の老朽化対策の推進
- ②防災減災・危機管理対策の推進

〈経営方針3〉

安全で安心な生活環境の創出

〈施策〉

- ①接続人口の拡大
- ②広域化・共同化
- ③公共用水域の水環境改善
- ④地球温暖化への対応

投資計画・財政収支計画

■投資計画

- ◇全体事業費(建設改良費)435億円(平成31~40年度)
- ◇ストックマネジメント計画に基づく計画的な施設の更新及び長寿命化対策工事の推進

■財政収支計画

- ◇計画期間内において、累計で純損益が黒字又は毎年度純損益が黒字となる計画を作成
- ◇計画的な資金管理による健全で安定した経営の確保

進行管理と経営戦略の見直し

- ◇経営の効率化を図り、安定的な事業運営を行うためのPDCAサイクルによる進行管理の実施
- ◇5年目及び必要に応じた宮城県流域下水道事業経営戦略の見直しの実施

宮城県上工下水一体官民連携運営事業(みやぎ型管理運営方式)の推進